

自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。(レビ記 19-18)

人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。(マタイ 7-12)

ひびきあい

HibikiAi

聖ヨハネ学園だより

発行：聖ヨハネ学園 〒569-1032 高槻市宮之川原2-9-1 TEL&FAX072-687-0548



理事長就任挨拶



聖ヨハネ学園
理事長

田尻 忠邦

2021年6月より聖ヨハネ学園の理事長に就任しました田尻忠邦です。

まず、15年の長きに亘って、今日の聖ヨハネ学園の発展に貢献されました野知卓司前理事長のお働きに対し、敬意を表したいと思います。特に2013年から始まった中期ビジョンは、2018年から第2期目に入り、当法人の次の100年に向けての礎を築くものですので継承していくつもりです。そのためには職員と支援者のみなさまと、一丸となって直面する課題に取り組んでいかなければなりません。喫緊の課題として、施設の老朽化と少子高齢化への対応、人財※不足の解消、人事考課制度の導入などがあります。

また、9月末をもって4回目の緊急事態宣言が解除されましたが、この間の各施設における

新型コロナウイルス感染症予防のため、細心の注意を払って日々業務に当たってこられた職員の皆さまのお働きに感謝いたします。しかしながら、この2年近くの間、各施設における様々な行事が、規模縮小や中止を余儀なくされてきました。そして、まだまだウイズコロナの期間は続きますので、引き続き各施設の職員の皆さまには、感染防止対策に細心の注意をお願いいたします。と、同時に一日も早く新型コロナウイルスが終息し、職員の皆さまが緊張とストレスから解放されることを祈るばかりです。

聖ヨハネ学園は、その理念に「地域と共にかがやくために」と謳っているように、地域との繋がりを大切にしています。創始者リーラブル女史の意志を引継ぐ者として、キリスト教の愛の精神をもって、弱き者、小さくされた者に寄り添う社会福祉施設の運営に尽力する所存です。そして、新型コロナウイルス感染拡大により失われた空白の2年間を埋めるべく、地域貢献プログラムの再活性化に努めます。

かつて私は、理事に就任して

間もない頃、この機関紙「ひびきあい」第38号に拙文を掲載していた機会を頂戴しました。当時、期待を持って生気にも提案させていただいた項目を以下に再掲させていただきます。

- ①各施設が有機的に結びつき相乗効果を生み出すこと
- ②地域に開かれた施設であること
- ③各施設で活動するボランティアが、横断的に交流できるシステムの構築
- ④「ヨハネ学園に行けば、何か楽しいことをやっているよ。」と人が人を呼んでくる流れを作ること

そして、「以上の事を実現するために、理事の一人として微力ながらお役に立てればと思っています。」と締めくくっています。理事長の重責を担った今、これらの項目の実現が決して容易ではないことは、十分に認識しています。しかしながら、これらの項目を新理事長の達成目標として掲げたいと思います。関係各位におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

※機械の歯車としての人材ではなく組織の財産という意味で「人財」を使用しています。

下田部保育園

創立50周年

園長 小池 みどり



1971年(昭和46年)5月1日に、高槻市より下田部団地に隣接して下田部保育園としての開設要望された経緯があり、地域に根づいて、半世紀が過ぎました。

開設当時を思い起こせば、120名定員でのスタートはそれだけニーズがあったことが伺えます。高槻市よりの土地を賃借してでしたが、(現在は土地は購入しています)保育室は余裕をもって建築されていたため、建て替え時にはずいぶん助けられたものでした。

そして、園児が146名在籍が数年続いたこと、耐震補強が急務とされたことと重なり、2008年より施設再生プロジェクトを立ち上げ、2009年に起工式。2010年に新園舎の下田部保育園が150名定員でスタートしました。私自身、何もわからないところから計画し、一大事業に携わることが出来たことに感謝するとともに、建設にあたって下さった関係者の方々、地域の方々、そして力を合わせて一丸となった法人や職員に感謝しています。

さて、このように新しい園舎になっても下田部保育園の精神は受け継がれています。50周年を迎えるにあたり、45周年記念行事までの周年事業は盛大に行うことが出来ましたが、50周年を迎えるこのコロナ禍においては、知恵を出し合い、開園した当時の保育園看板にオブジェとして羊とブドウを鍛金で飾り、花壇に設置した下にタイムカプセルを埋設し、年長児が作成した大きなケーキの中に新調した全園児、職員の園Tシャツを入れて、9月24日に埋設式を行いました。



昭和56年開設当時撮影

ました。(お時間のある時はぜひ見にいらして下さい)

今年の保育園年間テーマ「愛」50年先もとどけよう下田部保育園のもと、今育っている子ども達も、未来に向け、法人理念「いのちがかがやくために」を、今後もしっかり繋ぎ、命の尊さを、地域と共に下田部保育園として、全ての人々に愛し愛され、歩んでいきたいと、記念すべき50周年に改めて願いました。

ミスブール記念ホーム40周年

施設長 瀬古 雅子

令和3年5月1日にミスブール記念ホームは創立40周年を迎えました。

社会福祉法人聖ヨハネ学園の創立90周年事業として昭和56年に開設。創立110周年にあたる2000年から在宅サービス事業を開始し、120周年に小規模特養を開設するなど、節目に沿って事業を展開し、多くの方に支えられて40周年を迎えることができました。

今回、緊急事態宣言のコロナ禍であったこともあり、内内で小さくお祝いできればと話し合い、写真で振り返る40年として、施設



の関係者に向けた記念誌を作成しました。記念誌には、開設から今日に至るまでの、その年ごとの行事や、増築や改装、大規模改修を繰り返してきた建物の写真が掲載されており、初めて知る職員や、懐かしいと感じる職員など様々です。開設当初のご利用者は、ご自分で歩ける方がほとんどで、写真でも着物姿やスカート姿の方が目立ちます。今では車椅子の方の割合が8割以上で、フリースなど明るい色を好んで着られる方も多いように感じます。措置から介護保険、3大介護から生活支援へ、制度や考え方も大きく変わってきましたが、それでも、写真の中のご利用者の笑顔やご利用者と向き合う職員の表情はいつの時代でも変わりがないように感じられます。

5月1日当日は、昼食にお赤飯と天ぷら盛り合わせをいただき、ご利用者には練り切りまたは紅白饅頭を召し上がっていただき、一緒に40周年をお祝いしていただきました。

この先、50周年のときも、60周年の時も、今の常識とはまったく異なる大きな変化があるかもしれません。今日の前にいるご利用者にとっての最善を考え、進化を続けながら「変わりながらも、変

わらない」施設として邁進していきたいと、気持ちを新たにすることができました。



ここからは、「コロナ禍で生まれた笑顔」をテーマに、現場スタッフに聞いてみました。



コロナ禍二年目となり、学園行事・招待行事の中止や規模縮小が続きました。子どもたちも、どこかこの状況に慣れてきつつも、窮屈な思いをすることも多くあったと思います。私自身も暗い気持ちになってしまいうこともありましたが、このご時世にも関わらず、子

どもの笑顔を見る場面も多くありました。今回は、毎年フロアごとに年数回行う夕食会の子どもたちの様子について、みなさんにもご紹介できたと思います。私が担当している幼児フロアでは、今年度一回目の夕食会は八月に行いました。昨年と違い、低年齢のお子さんが増えたこともあり、この日の夕食会は小学生の子どもたちと職員が料理を担当しました。主体的に職員と一緒に料理する子ども「これやる」と自分で手伝う内容を決めたものの上手にできる自信がなく、途中で「難しい。できない。こっちゃやっていい?」と言う子ども、自分の役割を全うしていたかと思えば「味見していい?」とはじめから味見すること前提でお手伝いする子ども。夕食会の場面一つでも、子ども一人ひとりの個性があふれており、見ていておもしろいです。普段は、厨房で作っていたいただいた献立を美味しく食べているので、子どもと一緒に作る機会や、子どもが食材などを見る機会が少ないです。子どもたちの個性や新たな一面を見ることもできるので、夕食会やクッキングを通して、子どもたちも体験できる機会を増やしていきたいと改めて感じる場面でもありました。食



事が始まると、ジュースをたくさん飲んで雰囲気を楽しみ、すぐにおなかいっぱいになる姿や、普段は少食の子どもがたくさん食べる姿、大好物のメニューをお代わりして美味しそうに食べる姿など、普段とは違う雰囲気での食事を楽しむ子どもたちの姿を見ることができません。幼児フロアでの夕食会は、職員が準備や片付けをしながら、子どもたちの日課対応をするので慌ただしくなってしまうのですが、子どもたちの笑顔をたくさん見ることができるので、とてもやりがいがあります。今年は、夕食会以外にも、フロアでピニールプール・流しそうめん・ペイントフォト・クッキングなど、外出できなくても、学園で楽しむことが

できる行事もしました。

まだフロアでのイベントは控えているので、これからのイベントも子どもたちと一緒に全力で楽しみ、今後も、子どもたちの笑顔をたくさん見ることができると企画を考えていきたいです。

(保育士 M)

下田部保育園

2020年から続く、新型コロナウイルスの影響により、下田部保育園でも登園自粛の要請や行事の規模縮小・中止などが余儀なくされてきました。この様な状況下でも、少しでも子どもたちに様々な楽しい思い出を作つてあげたい、経験をさせてあげたいという気持ちがあり、検討を重ね昨年中止となった夏祭りを開催することにしました。

コロナ流行前の夏祭りでは、飲食やゲームコーナーなどを含め8コーナー程準備し、園児や保護者の方、卒園児、地域の方々を招いて盛大に行っていました。しかし現在の状況を踏まえ園全体を使用し密を防ぐように5コーナー設置し、保護者の方の入場を2名まで



に制限したり、3部制に分けたりなどと様々な面で工夫をしながら、皆さんに楽しんでもらえるようにと準備を進めていきました。

当日は天気にも恵まれ、無事に予定通り開催することができました。浴衣や甚平に身を包んだ子どもたちの表情は期待に満ちあふれ笑顔でいっぱいでした。待ちに待ったお祭りが始まり、首からスタンプカードをぶら下げて各コーナーへ向かっていく子どもたち。ゲームに挑戦してお菓子をゲットして嬉しそうにする子や、お家の人と一緒にヨーヨー釣りを楽しんでいる子など、子どもたちや保護者の笑顔が溢れる園内になり、どこか久しぶりに感じる雰囲気心が温まる瞬間でもありました。保護者の

方からも安心できる環境のなかで、夏祭りに参加できたことを喜ぶ声や感謝の言葉がたくさん届き、様々な制限がある中ではありましたが、無事に下田部保育園夏祭りを開催できたことに安堵しました。

各コーナー担当の職員も子どもたちが喜ぶ姿を見て、自然と笑顔になり子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

今回たくさん笑顔を見ることができ、本当に嬉しい気持ちになったからこそ、今年度は参加人数に制限を設けたことにより卒園児に参加してもらうことが叶わず、残念に思いました。

来年度以降、コロナの状況はどうなっているか予測できませんが、卒園児の子どもたちにも参加してもらえる時間帯を新たに設けるなど、職員一同創意工夫して多くの笑顔が見られるような下田部保育園らしい、夏祭りが企画できればと思っています。(保育士 D)

ミス・ブルー 記念ホーム

新型コロナウイルスの流行に伴い、昨年の2月から全ての行事やクラブ活動が中止となり、更に大

切な家族とも会えない日々が続く、当たり前だった日常を取り戻すことが出来ない現状がありました。

そんな中、ご利用者・職員のワクチン接種が進み、希望の光が見え始めた頃、施設のイベントを考える行事委員会の活動が再開され、話し合いの中で行事委員全員が「昨年、我慢の一年を過ごしてきた分、今年は楽しい事をしてい」と同じ気持ちであることが分かり、6月からイベントを開始しました。

6月は地域のお店を応援する意味も含め、「握り寿司のテイクアウト」、7月は大きな笹をヨハネ学園からいただき「七夕」を。7月の下旬には小グループに分かれて「流しそうめん」、8月は2グループに分かれて「かき氷&花火大会」を実施しました。

9月は毎年8月に行っていた夏祭りを「秋祭り」に変更し、敬老の日のお祝いを兼ねたお祭りを行いました。ご利用者には「お好み焼き」や「コロッケ」「綿菓子」や「パンケーキ」の屋台でお腹をみたくして頂き、職員手作りの「射的」や「金魚すくい」「ヨーヨー釣り」の出店を楽しんでいただきました。屋台のお好み焼きをビール片手に召し上がられる方もおられ、「おいしいわー。幸せ。」と



ほろ酔いで話して下さいました。

また、洗濯バサミとペットボトルのキャップで加工した金魚をうちわですくうゲームは、愛らしい顔の金魚に「かわいいなー、いっぱいすくうわ」と子どもの頃に戻ったかのようにはしゃいでおられました。サプライズとして獅子舞が登場し、ご利用者全員の顔にガブッと噛みつき、無病息災を願いました。あつという間に一日が過ぎましたが、皆さんの笑顔を拝見することができ、また職員もご利用者と楽しい時間を過ごせたことで2021年の思い出を作ることが出来ました。

前期の行事委員として4か月間に渡り、「ご利用者の笑顔を見たいー職員も一緒に楽しみたいー」

との思いで取り組みを行いました。感染対策を含めたイベント計画に、くじけそうになったこともありましたが、ご利用者の笑顔を拝見することができ、心からこの仕事に携わることができてよかったですと感じています。まだまだコロナとの闘いは続きますが、ご利用者の笑顔を引き出せる行事をこれからも続けていき、いつかご家族も交えて楽しい行事ができることを願っています。(相談員 M)

ゆい・あいセンター

ゆう・あいセンターのデイ教室(地域活動支援センター)は、レクリエーションを通じて、仲間や職員との関わりの中、ご利用者それぞれが楽しみ、ご自分の思いを話し、自分自身と向き合っていくところです。レクリエーションはスポーツ感覚のゲームや、創作活動、カジノ、お祭りなど色々やってきましたが、このコロナ禍で、ご利用者から人気の高かった「クッキング」・「カラオケ」・「外出行事」という三つのレクリエーションが出来なくなりました。そんな中、ご利用者から「トラ

ンプ」がやりたいという声がありました。今まで、やらなかった訳ではないのですが、お昼休みにやりたい人だけでやっていた程度で、全員で行うレクリエーションとして取り入れたことはありませんでした。

しかしやってみると、職員も混ざり全員で一つのテーブルを囲んで、そこにはグループとしての一体感とアットホームな感じの安心感のある笑顔が生まれていました。「ババ抜き」や「7並べ」など、みんなが知っているゲームから始めましたが、徐々にゲームの種類が広がっていき、「豚のしっぽ」や「大富豪」もするようになりま

した。特に「大富豪」は調べていく内に、色々なローカルルールを知り、それらを応用して、デイ教室独自のルールを作っていました。同じゲームでもグループによって単純なものから複雑なものまでルール設定を変えて楽しめるようにしました。又、

花札のゲーム



「かちかち」から派生した「10・10(じゅんじゅん)」という賭け事も始めました。コインを掛け合うゲームなのですが「駆け引き」あり、「はったり」ありで、人間性が出てとても盛り上がりがあります。

曜日によってグループを形成していますが、実にさまざまなご利用者がおられます。障がい特性もさまざまで、難聴や知的障がい、認知機能の低下がある方や、随意運動の障がいの特性により思うように指先を使えない方もおられます。それでも指先の巧緻機能を一生懸命発揮し、頭脳を働かせながら楽しめるので、レクリエーションの目的として理に適っていたのです。コロナが収まり以前のよう

ようになって、「トランプがやりたい！」という声をご利用者からあがると思われれます。

(支援員 O)

うの花療育園

昨年度から、感染症対策で行事等が大きく変わりました。行事を全て中止するのではなく、少しでも子ども達の経験になることを優先に、規模を縮小したり、少人数での開催等、対策を講じて取り組んできました。

昨年は中止となった『プール遊び』を、今年の実施することができました。1日にプールに入る人数を制限し、2〜3日に1回の頻度にはなりましたが、回数は少なくともプールを少人数でゆったり入ることができ、水飛沫が苦手なお子さんも水に馴れやすいというメリットがありました。職員の抱っこから一緒に水中に座ったり、職員の中に乗ってカメの親子のように進んだり……水が好きなお子さんは、広々としたプールでワニ泳ぎをしたり、水中に浮かせた大きなマットに乗ったりと、ダイナミックな遊び方ができました。



今年も『夏祭り』は、昨年同様、卒園児や地域の方を招くことはできませんでしたが、「輪投げ」「玉当て」「虫さがし」「屋台ごっこ」等、各クラスが普段の療育の設定活動に盛り込み、いつもの流れの中で経験できるようにしました。そこから好きな遊びが拡がり、うの花にわかに広まった。虫ブーム！秋に至る現在まで、園庭や散歩先の公園、そして10月に行なった畑での芋掘りの際も、ダンゴ虫・ちようちよ・ミミズ・カメムシ・幼虫探しに勤しむ子ども達の姿があらこちらで見られ、職員も一緒に楽しみ、虫に詳しくなりました。

また、昨年度の保護者の意見として多く挙がった、「コロナ禍で保護者は参加の機会が減り、残念だった」という声を受け止め、今

続けていきたいと思えます。

(保育士 I)

地域生活支援センター光

コロナ禍の日常が当たり前になつて光の施設内でも、少しずついろいろな変化がありました。最初はマスクが苦手だったご利用者が、慣れてむしろ自ら積極的にマスクをつけることを希望されるなど、感慨深い場面も多々ありました。ですが、概ねこれまでの生活はガラッと変わってお出かけもできない中でプラスチックがたまつていく様子が職員として心が痛む時も多くありました。そんな中で、光の行事が行われると例年以上の盛り上がりになっていると気が付きました。今回、光の行事の例年とは違う点を取り上げたいと思います。

年度は更に工夫を重ね、10月には保護者参加の親子遠足と、休日参観を開催しました。遠足は、子ども達は園バスに乗って、保護者には現地に集合していただき、午前中の小一時間を公園で遊びました。観光バスやお弁当がなくても、園バスでお出かけして、保護者と一緒に外遊びすることが、どれほど子ども達には新鮮で、嬉しい活動となったか、子ども達の笑顔と「バス乗った」「公園、遊んだ」という感想から伝わってきました。休日参観では、クラス単位で「たいく遊び」と「保護者クラス懇談」を行いました。コンピカー・電車ごっこ・アンパンマンパズル等、子ども達が楽しめる要素を運動遊びの中に取り入れ、子ども達も保護者も、穏やかな雰囲気でもミニ運動会に参加していました。クラス懇談では、保護者同士の顔合わせや繋がりを作り、園で大切にしている子ども達への支援をお伝えする機会にもなりました。

今後、12月はおもちつき、クリスマス会、3学期はおたのしみ会と、季節行事を行なう予定です。

安心安全な生活の中で行事の経験を重ねていけるよう、又お子さん・保護者・そして職員の笑顔が広がるよう、工夫して取り組みを

つい先日あった入所ユニットで行われた運動会ですが、例年、3階のホールで行っています。採用試験や法人のセミナーなどにも活用している大きめの体育館みたいなスペースで、外部の方が健康教育室として活用いただくこともあります。そこで前日に会場のセッテイ

ングをするのが通例となっていました。今は外部の方の利用をご遠慮いただいている都合上、会場セッティングに時間をかけることができるようになりました。

例年とは違う状況の中運動会委員の職員は試行錯誤をして準備をしていました。業務で使用頻度の増えたZoomを活用する案もあり、普段は集団でのイベントが苦手なご利用者が事務所職員と一緒にZoomで競技に参加するなど、コロナ禍前では想像もつかないアイデアも考えてくれました。また、工夫を凝らしたメダルを作るなど、丁寧な準備をしている運動会委員の様子は微笑ましいものでした。その他、細かい運動会の内容のセッティング等普段の業務に加え丁寧に準備をして運動会を執り行い



ました。

運動会当日は、溜まっていたラストレーションを発散するかのような例年にならない盛り上がりでした。いつもはご家族にも参加をいただく運動会ですが、情勢を考慮し、ご利用者と職員のみで運動会でしたが、変に格好つけられない楽しみ方ができたのかもしれない。運動会は毎年ありますが、コロナ禍になってからの去年・今年の運動会でのご利用者の表情や雰囲気は例年とは少し違いました。以前のひびきあいで紹介したワゴン販売もそうですが、光内でのイベントはご利用者にとって、とても意味のある大切なものと改めて気づかされた思いがしています。今後も工夫を凝らしたイベントを実施しようと決意を新たにいたしました。日々の生活の中の細かい違いをご利用者と一緒に見つけて楽しんでいきたいと思えます。

(生活支援員 Y)

聖ヨハネ 子どもセンター

児童発達支援事業の親子教室(グループ)では、毎年、気候のいい春や秋は、近くの公園まで、み

んなで歩いていき、すべり台やお砂遊びを楽しんでいました。

コロナ禍になり、公園遊びが難しくなりましたが、お子さま達に、屋外の開放的な雰囲気でのびのび遊んでいただきたい、自然の風や光や土などを全身で感じていただきたいとの思いが強くなりました。コロナ禍だからこそ、外遊びの意味や大切さを改めて感じて、スタッフで皆さま達が外遊びを安全にできるように、話し合いを重ねました。そして、色々な方々のご協力のもと、コアラ教室の玄関前に、外遊びエリアをつくることができました！

お子さま達は、大喜びで外に出て、虫をみついたり、草花を眺めたり、本物の車をみたり。お砂場コーナーでは、思い思いに砂をさわったり、身体にかけたり、スコップですくったり、車玩具に砂をのせて運んだり。外遊びエリアでは、お子さま達は、お部屋ではみられない表情を沢山見せてくれます。お部屋では、おとなしいお子さまも、外ではよく声が出て、表情豊かになれることも多いです。玄関から出て、すぐ外遊びエリアになるので、気持ちの切り替えが難しいお子さまにも、見通しがつきやすいこと、知らないお友達があ



いないので、お子さまや保護者の方が安心して遊べることも、外遊びエリアならではのよいところ。保護者の方にも「なかなか外で遊ばせられなかったので、こんな場所ができて嬉しい」などの声をたくさんいただいています。お子さま達それぞれが、心身とも安心・安全で、心地よい環境の中、それぞれの気持ちをのびのび出せること、それをまわりの大人に受け止めてもらえること、そんなことを日々大切に、コロナ禍においても、たくさんの方の笑顔に出会えるようコアラ教室職員一同、日々精進して参りたいと思えます。

(公認心理師 H)

◎チャプレン室からのたより

「神に栄光、地には平和」

心から心へ

主イエス・キリストのご降誕をお祝いいたします。



チャプレン 司祭 ショーシ林 正樹

に勇気を与えられて新しい形を模索。夏から始めた半年間の手作り品や日用品中心の常設バザーはゆたかな収穫を得ることができました。感謝の心を込めて、聖ヨハネ学園・児童養護施設のささやかなプレゼントにその実りを献げることができましたことを感謝いたします。

クリスマスおめでとございませう！コロナの中で迎えたクリスマス、世界中が新型コロナウイルス禍の闇の一年でした。困難の中、皆さんと共に知恵と力を結集できた一年でもありました。

ミス・ブール宣教師の心と働きを原点に130年間続けて来ましたチャリティ・バザーは、マザー・テレサの言葉「ともに力を合わせれば、素晴らしいことができるのです。」

2000年前の今宵、地球の片隅、大国ではなく、ユダヤという滅びに直面している小さな国の、そのまた小さな村で生まれた一人の赤ん坊の誕生日を、今、世界のほとんどすべての国でお祝いしています。その幼な子こそ、全人類の救い主としてお生まれになったわたしたちの主イエス・キリストです。

イエス様の誕生の様子を記した新約聖書を読みますと、そこには驚くべき物語が書かれています。第1に、貧しい家庭に育ち、まだ幼かったマリアという女性が、神の恵みに包まれて男の子を宿したということです。

マリアと婚約者ヨセフは悩みに悩んだ末、その子を自分たちの子として育てることを決意します。第2に、お生まれになった場所も、後に「全世界の救い主」と呼ばれるようになった神の子には、あまりにもふさわしくないと思われる、糞尿の臭いの立ちこめる家畜小屋でした。第3に、イエス様の誕生のことを真つ先に知らされたのは、夜、羊の番をしていた羊飼いたちでした。その羊飼いに、真つ先に天使が現れ、「今日夕ビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」と告げられるのです。第4に、驚くべき出来事は、はるか東方の国から三人の博士（実は占星術師で当時最先端の科学者ともいわれています）が星に導かれて幼子イエス様の誕生の現場にやってきたということです。異邦人に救い主の誕生が知らされたのです。

これらのことはすべて、一つのことを語っています。それは、神様がこの世に、しかも、最も低いところに、最も低い存在として来られた、ということです。貧しく、低く、悩み、虐げられ、差別され、疎外された人々のところにイエス様は来られたということです。羊飼いに真つ先に知らされたクリスマスの出来事は、かけがえのない自分の価値に気づかせてくれます。それが、私たちに対

する最高のクリスマス・プレゼントなのです。

中学生の頃、YMCAのクリスマス礼拝で、はじめて訪れた教会で聞いたあのクリスマス・メッセージが、時を超えて私に甦えります。今年もクリスマスを迎え『きよしこの夜』を歌う時期が訪れました。私は平和を祈りながら、この喜びの歌を静かに歌います。皆様の上に、神様の祝福がありますようにお祈りいたします。主の平和！

社会福祉法人 聖ヨハネ学園 (法人本部)
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 TEL&FAX 072-687-0548

- 聖ヨハネ学園 (児童養護施設)
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-687-0541 FAX 072-689-3623
- 下田部保育園 (保育所)
〒569-0046 高槻市登町1番1号 ☎ 072-671-9960 FAX 072-673-8039
- ミス・ブール記念ホーム (特別養護老人ホーム/デイサービスセンター/ケアプランセンター/ヘルパーステーション/地域包括支援センター/エンゼル園)
〒569-1031 高槻市松が丘1丁目21番9号 ☎ 072-688-5138 FAX 072-688-4478
- ゆう・あいセンター (高槻市事業受託/地域活動支援事業Ⅱ型・特定指定相談支援事業)
〒569-0075 高槻市城内町1番11号 ☎ 072-672-0267 FAX 072-661-3508
- うの花療育園 (高槻市指定管理者事業・児童発達支援センター)
〒569-1131 高槻市郡家本町5番5号 ☎ 072-685-3803 FAX 072-685-3805
- 地域生活支援センター光 (障がい者支援施設/放課後等デイサービス)
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-680-1110 FAX 072-691-8300
- 聖ヨハネ子どもセンター (高槻市乳幼児療育事業受託/児童発達支援/放課後等デイサービス事業/障がい児相談支援事業)
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-687-7720 FAX 072-687-7722